

【泌尿器科】

2023年度（令和5年度）の新潟大学泌尿器科医局からの出張医は若杉優樹先生で、副院長・泌尿器科部長の羽入との2人体制でした。

【外来】 平日午前中、外来医師2名で、排尿障害、夜間頻尿、尿路感染症、尿路結石症、泌尿器癌、泌尿器救急など主要な泌尿器科疾患全般を診ています。新患・予約外受診は1日約10人前後、再診は約50人です。多くが60代～90代の高齢者で、加齢での神経疾患や前立腺肥大症による排尿困難・失禁・頻尿、残尿増加による慢性膀胱炎、高度排尿困難での尿道や膀胱瘻のカテーテル留置、老化（細胞の遺伝子変異）による悪性疾患（前立腺癌・膀胱癌）、運動不足・心不全・不眠症などによる夜間頻尿、飲水不足や過食やビタミンD製剤による尿路結石症、不眠などからの免疫低下による膀胱炎・腎盂腎炎、などです。20～50代は飲水不足・過食による尿路結石、不眠からの膀胱炎、性交渉によるクラミジア尿道炎が多いようです。

直接受診、紹介患者、検診2次精査、他科コンサルトなど、全てに対応しています。柏崎地域では泌尿器科医師は2名と極めて少なく、患者数は半端ない状況です。看護師、受付係、医療クラーク、医師は全員、獅子奮迅の毎日です。エコー、尿流測定・残尿測定、軟性尿道膀胱鏡など毎日行います。尿道留置カテーテル、膀胱瘻・腎瘻のカテーテル交換が毎月約100例です。外来患者数は限界状態、手術数も年間330名（延べ手術件数400件）と高止まりです。大学医局からの派遣医師数には限界があり、医師の働き方改革という国家プロジェクトの影響もあり、更に省力化を工夫せざるを得ません。2024年1月より午前から手術する日を設けることにしました。毎週水曜日の再診予約を徐々に減らし、2024年5月から毎週水曜日の外来は完全休診です。急患は電話連絡をいただければ、何とか対応することになっています。

新規の前立腺がん患者は1年間で約50例でした。年齢、ADL、併存疾患、患者の希望などを考慮し、内分泌療法、放射線療法（外照射）などを行います。ロボット支援前立腺摘除術、IMRT、重粒子線治療、内照射の希望があれば他院に紹介しています。がんの緩和ケアは基本的に外来で行い、必要に応じて入院で対応します。在宅看取りも病院に近い患者での対応は家族・訪問看護・医師との協力体制が整えば可能ですので、毎年数例の希望を実現しています。

2020年に勃発した新型コロナは徐々に弱毒化し、2023年に種々の規制が緩和されましたが、基礎疾患のある患者や高齢者では重症化リスクがありますので、発熱者、術前の濃厚接触者である患者などでのコロナ検査はルーチンとなっています。

心房細動や深部静脈血栓症患者での抗凝固薬、脳梗塞や心筋梗塞での抗血小板薬の使用は非常に多く、手術管理やカテーテル留置管理では、常に気を使わなければなりません。

尿道カテーテル交換では男性尿道損傷が、柏崎地域で毎年数例発生しており、尿路感染や抗凝固管理があると重篤化しますので要注意です。カテーテル管理患者は年々増加しており、医師の労働軽減と外来混雑解消のために、外来看護師と訪問看護師へのタスクシフトに取り掛かりました。カテーテル交換・管理のコツを医療者に広く普及させることが重要で、講習会も検討中です。

【入院】 1年間で約450例が入院しました。手術が8割、尿閉の管理・感染症（腎盂腎炎、前立腺炎など）・がん緩和ケアなどの保存療法が2割。泌尿器科の平均在院日数は約10日です。80歳以上の肥満症、認知症・心疾患・糖尿病・骨粗鬆症などを合併し、多剤内服中で、ADLの低下した患者さんが多いです。転倒予防・せん妄不穏への対応はルーチン化しています。独居・介護力不足のため自宅に退院できない患者さんも多く、慢性期病院・老人施設・地域包括病棟に比較的早く退院するようになりました。

多忙な看護業務を軽減するため医師も協力していますが、更なる改善のために医師・看護師・補助看護師・病棟薬剤師・病棟クラークなどスタッフの充実が課題です。高齢者の医療福祉は需給バランスや本人・家族・医療者・財政の負担を考慮して、治療をどこまで行うのか、住民一人ひとりがアドバンスド・ケア・プランニングを進めてゆく必要があると考えています。

【手術】 2023年の手術件数は別表のとおり526件で、去年の423件よりも増加し、コロナ前に戻りました。新型コロナによる制限が解除されたこと、高齢者医療需要が減っていないことが考えられます。体外衝撃波結石破砕術 ESWL39件、前立腺針生検術89件、経尿道的前立腺切除術 TURP 72件、経尿道的膀胱腫瘍切除術 TURBT 68件、ダブルJカテーテル留置43件、経尿道的尿管結石レーザー破砕術 TUL37、膀胱瘻造設術25件、などが多い手術です。若手泌尿器科医師に経験を積んでいただくように指導しながら、多くの手術を安全に行っています。

近年、膀胱瘻造設術の症例が増えています。膀胱瘻はカテーテル交換が容易で痛みが軽く、膿尿・血尿が尿道カテーテル留置に比べて軽度であり、QOLに寄与しています。腎盂尿管癌などの大きな手術は2023年度6件と増え、コロナ前に戻りました。

【2023年11月 電カルのバージョン更新、診察待ち患者の案内システムの開始】 更新バージョンのシステム的な問題も数か月で徐々に解消され、システムに慣れてきました。診察待ち患者の案内システムにスタッフも患者さん・家族も徐々に慣れ、待ち時間ストレスも減少しているようです。

【ほか】 泌尿器科部長・副院長である私も66歳になり、パフォーマンスは益々低下してきております。中堅泌尿器科医の着任は一刻の猶予も許されない状況と思っています。老体に鞭打ち、患者・家族の心身の苦悩と対峙し、私自身も医師労働の苦悩と向き合い、ささやかな満足を得ております。

(2023年3月 副院長・泌尿器科部長 羽入修吾)

2023年 泌尿器科 手術統計

腎の手術・・・30件		陰茎の手術・・・10件	
経皮的腎瘻造設術	11	環状切開術	8
腎尿管全摘	6	背面切開術	2
腎瘻拡張・カテ交換	4		10
f-TUL	5		
腎部分切除術	2		
嚢胞エタノール硬化療法	1		
経皮的腎腫瘍針生検術	1		
	30		
		副腎の手術・・・0件	
		その他の手術・・・5件	
尿管の手術・・・127件		感染性尿膜管遺残・切開排膿	1
DJ留置	43	感染性尿膜管遺残・切除+膺开	1
DJ交換	6	鼠経ヘルニア根治術(膀胱脱)	1
DJ抜去	5	フルニエ壊疽・切開排膿	1
TUL(レーザーなど)	37	フルニエ壊疽・デブリードマン	1
RP+	10		5
尿管尿管吻合術	2		
尿管切石術	1		
回腸導管	1		
	105	ESWL	39
		2023年手術統計	
膀胱の手術・・・128件		腎の手術	30
TURBT	68	尿管の手術	127
膀胱瘻造設術	25	膀胱の手術	128
膀胱碎石術	16	尿道の手術	6
凝血除去+TUC	15	前立腺の手術	163
憩室電気凝固	1	精巣の手術	18
水圧拡張術	1	陰茎の手術	10
膀胱部分切除+縫合	1	副腎の手術	0
膀胱全摘	1	その他	5
	128	ESWL	39
		合計	526
尿道の手術・・・6件		件数の多い術式	
尿道狭窄・切開/ブジー	4	TRUS-PBx	89
TUR尿道生検	2	TURP/TUIBN	72
	6	TURBT	68
		ダブルJカテーテル留置	43
前立腺の手術・・・163件		ESWL	39
TRUS-PBx	89	TUL(レーザー)	37
TURP/TUIBN	72	膀胱瘻造設術	25
凝血除去+TUC	2	膀胱碎石術(レーザー)	16
	163	経皮的腎瘻造設術	11
		その他	126
			526
精巣の手術・・・18件		悪性腫瘍根治術・鏡視下手術の件数	
去勢術	8	根治的腎摘除術	0
精巣摘除術	3	腎部分切除術(腎癌)	2
高位精巣摘除術	2	腎尿管全摘除術	6
陰嚢水腫根治術	2	膀胱全摘除術	1
精巣捻転固定術	1	高位精巣摘除術	2
停留精巣固定術	1	陰茎癌手術	0
停留精巣摘除術	1		11
	18		